

チュニジア(1999年) タメルザ渓谷

チュニジア中央の西、隣国アルジェリアとの国境近くに山岳オアシスのタメルザ渓谷がある。97年のアカデミー賞で6部門の受賞をした砂漠を舞台にしたラブロマンス映画「イングリッシュ・ペイシエント」のロケ地であることから欧米の観光客には人気の場所になっている。



(写真 3-4-1) 砂嵐の中の景色。

大型ジープを降りて、駐車地から渓谷を展望できる地点に登っている途中で初体験の砂嵐に遭遇した。怪しい風だなと思った途端に青空が黄色に染まり、あたりが暗くなる。太陽も肉眼で見てもまぶしくない。薄雲に隠れている月のようだ。やがて真っ暗になり危なくて進むことが出来ない。細かい砂が痛いくらい飛び交っているの、タオルを顔にあてて、風向きに背を向けて止むのを待つしかない。幸い20分位で止んでくれたが体中砂だらけになり、使用したカメラも細かい塵が入って使えなくなってしまう。

砂漠のオアシスは隊商の休憩所で必ず水と食料の補給が必須である。ここタメルザは砂漠に盛り上がった山とそこにある渓谷に油椰子が群生している村になっている。渓谷の崖は砂岩で柔らかそうだが、おそらく数十万年かけて、川の浸食で出来たのだろう。水量はそう多くないが、岩肌から滝が流れている。近くに洪水で廃墟になった村があるので、水が大量に流れることもあったのだろう。周囲が砂漠の中で岩から水が滝になって出現し、川はいつのまにか砂の中に吸収されてしまう。こんな場所で洪水があったのは我々には信じがたい話だ。

ここで、水の補給をし、或いは砂嵐で汚れた体を洗い流し、油椰子の実の干したものを食料に補給し、宿をとっていく隊商の団が目に浮かんでくる。今では駐車スペースには10数台のジープが駐車し、土産物屋が並び欧米の観光客が訪れていた。



(写真 3-4-2 左) 駐車地。掘っ立て小屋は土産物売り場。



(写真 3-4-3 上) オアシスの中心、椰子の林。この実を乾燥させたものは栄養分豊富な隊商の必需品。



(写真 3-4-4 右) タメルザ渓谷。侵食して出来た崖は幾層にもわかれ、結構の深さで下にも林がある。崖の上に住宅がある。隊商の止まる宿も有るかもしれない。

崖を降りて見ると崩れた岩がごろごろしている場所もあるし、岩の隙間から水が湧き出したり、滝になっている

箇所もある。砂漠で滝を見られるとは来るまで思ってもみなかった。



(写真 3-4-5~7) 水は突然地上に現れる。岩の割れ目から滝になったり、クレパスの底から湧いている。

(写真 3-4-8 左) オアシスの小川。砂漠の中にこの先で吸収されて消えてしまう。緑があるのはこの周辺だけだ。



(写真 3-4-9 右) タメルザ渓谷の崖。

このタメルザに人気の豪華リゾートホテル「タメルザ・パラス・ホテル」がある。宿泊していないが、興味があったので、車を回して見せてもらった、さすがフランス人の経営で四つ星だけあって。豪華なつくりで建物も周囲に色も形も同化している。ホテルから見えるのは砂漠一色である。オーシャンビューでなくデザートビューだ。



(写真 3-4-10・11) タメルザパラスの建物(左)と庭から見る景色。

生物体の極めて少ないこの風景を数日滞在してみるとどんな気持ちになるのだろうか？興味深いことである。